

「ぬのこ谷（北谷）のなつかしい歌」伝承事業について

ぬのこ谷マップ編集部

1. 経緯

北谷地区は、倉吉市に統合された昭和 28 年(1953)の人口は 3,200 人以上でしたが、令和 7 年(2025)は約 1,100 人となり 70 年余りの間に 3 分の 1 に減少しました。

そして、地区の基幹産業である農業の衰退、耕作放棄地の増加や、少子・高齢化の問題が起きています。

北谷コミュニティセンターでは、令和 2 年度から地元の人たちに文化や歴史を次世代に繋ぎ、また、地区外の人たちには北谷の良さを発見、応援する気持ちを持っていただき、さらには地区内外を問わず北谷に住みたいと思う人が一人でも多くなることを願って、「ぬのこ谷マップ」を作成したところですが、引き続き、マップ作りに参加した有志で北谷地区の活性化を図るために任意団体として、「ぬのこ谷マップ編集部」を結成しました。

そして、今年は「ぬのこ谷（北谷）のなつかしい歌」を伝承する事業を実施することになりました。

2. 目的

旧北谷小学校（令和 6 年 3 月廃校）は、戦後 10 年後の昭和 30 年（1955 年）、今から 70 年前に社会科の副読本として「北谷の歩み」を発行しました。

この本に、山下清三教諭が作詞、江本ときを校長が作曲された 5 曲の歌が載っています。

「北谷ぬのこ谷」・・・北谷（ぬのこ谷）の風土、気候、住民の人情などの歌
「神さまとなまず」・・・森集落にある山長神社の神さまとナマズの楽しい歌
「北谷川」・・・上流の集落から下流の集落を巡って、海へとそそぐ北谷川の歌
「ヒマラヤ杉」・・・小学校の大きなヒマラヤ杉は、みんなが知ってるという歌
「桜が丘」・・・丘の上にある小学校の桜の花が咲いて、春が来た様子の歌

これらの歌は、地域（北谷）及び、倉吉市の文化遺産として誇れるものです。

この歌を知らない北谷の子供や大人の方々に聞いていただき、また、当時の小学生だったお年寄りの方に思い出していただくため、住民有志の協力を得て CD を製作し、久米小学校と北谷地区地域振興協議会に寄贈して、いろいろな行事に活用していただくことで、この歌が後世に伝わっていくことが目的です。

3. 製作経過

製作実施期間 : 令和7年5月～10月
合唱練習、録音 : 毎月1回 13:30～15:00 5回
5月29日、6月26日、7月24日、8月21日、9月24日
CD完成試聴会 : 11月13日
CD寄贈関係 : 11月23日 北谷地区振興協議会
11月27日 久米小学校

4. 合唱協力関係者

- 1.合唱指導・・・牧原 瞳
- 2.合唱協力・・・石原 穰、石原光子、丹後町子、吉田京子、
野嶋良子、陰山喜代美、押村栄理子
- 3.製作協力・・・伊藤企画（代表 伊藤秀行、村上瑞希）

5. 「ぬのこ谷マップ編集部」

編集長・・・古林一久
副編集長・・・大窪逸子
部 員・・・岩垣和久、東本静美、佐々木英義、小原将大

6. 参考 「北谷の歩み」に書かれている江本登喜雄校長の願い

○この本をつくるにあたって（抜粋）

この本は、多くの村人達や本校の先生方の協力で、出来あがったのです。
ほんとうに、平和で幸福な暮らしができるようにするために皆さんの社会を
見る目がもっとするどくなり、社会をよくする力が、つよく育ってくれるよう
に、ねがって作られたのです。

楽しい歌もあります。

面白い民話もたくさんあります。

皆さんだけでなく、お家の方も、一緒になって、なんどもくりかえして、
読んで下さることをのぞみます。

昭和30年11月

北谷の歩み



北谷小学校発行

昭和三十年

この本をつくるにあたって

北谷の子どもでありながら、北谷の歴史を知らず、北谷の地理を知らないでは、どうして北谷のよい子といえましょう。

皆さんの社会科学習は、北谷を知ることからはじまると、いいと思います。この本には、日本の面の歩みと共に、北谷がどのようにかわってきたかということが、書いてあります。

この本を読むと、北谷の昔や今のことを、知るばかりでなく、郷土の調べ方もわかり、もっとよい、北谷にするためには、どうしたらよいかという問題にも、心がちいてくると思えます。

この本は、多くの村人連や本校の先生方の協力で、出来あがったのです。

ほんとうに、平和で幸福な暮らしが、できるようにするために、皆さんの社会を見る目が、もっとよくなり、社会をよくする力が、つよく育ってくれるように、ねがって作られたのです。

楽しい歌もあります。面白い話もたくさんあります。

皆さんだけでなく、お家の方も、一緒になって、なんともくちがえして、読んで下さることをのぞみます。

昭和三十年十一月

北谷小学校長 江本登喜雄